

「港区を良い方向へ」願い再出発！

住民投票で「都構想」否決、恩讐越え真のまちづくりへ

「大阪市と港区が守られた！」「いや改革の機が失われた」。五月十七日に実施された「大阪都構想」住民投票で、政令市である大阪市を五分割して消滅させる同構想が反対多数で否決。港区では反対票が賛成票を二千人回りました。橋下市長が掲げる「三重行政解消」の看板に隠された「財界奉仕」の狙いを見抜き、「暮らしと歴史をふみにじらせるな」と立場を越えて市民が大同団結した成果として日本の政治史に未長く刻まれることでしょう。今後は、この間の運動の中で煽られた対立を越え、恩讐を越えて、「大阪が、港区が良い方向へ変わってほしい」という共通の願いを土台に、真の大阪づくり、港区づくりに向けた協議・協働へ踏み出すことが期待されます。

しのぎ削った賛成・反対、激論争を糧に建設的な協議・協働を

「大阪で最も暑い一日」（大阪毎日新聞）とマスメディアが評した五月十七日（日）。夏を思わせる

日差しと爽やかな空気に新緑がまぶしく映える中、港区でも十一の投票所前を中心に、賛否両

派による壮絶な呼びかけ合戦が、早朝から夜遅くまでのほぼ終日、繰り広げられました。

◆「反対」練り歩きや「賛成」演説

「このうち午前の田中地域では『府民のカニ一〇一五』というグループの男性十人が『市民の暮らしをつぶす大阪市の廃止・分割に反対です』『実は『大阪都』にはなりません』『大阪市を廃止すると二度と戻れません』『市民サービスは確実に低下します』『二〇二〇億田が『府』に流出します』などと書かれた看板を胸に吊るし、メガホンで住民に『都構想に反対しましょう』と連呼しながら練り歩いていました。この中では、わざわざ家から出て『苦労さま、頑張つてね』と激励する住民の姿が見られました。

また地下鉄朝潮橋駅前の歩道では、オレンジのＴシャツを着た「大阪維新の会」の男性が道行く人に向かって、マイクで「賛成」を呼び掛ける演説を長時間続けていました。

◆田中では「反対」に有権者三つ

また午前の田中小学校前ではオレンジや白のＴシャツを着た「大阪維新の会」の男性一人が正門の片側で「チェンジ大阪五・一七賛成」「住民投票では賛成を」などと書かれた看板を示しながら「大阪都構想に賛成しましょう」と呼び

「田中小学校前で『反対』を訴える『大阪市をよくする会』の男性(右手前と、『賛成』を呼びかける『大阪維新の会』の二人(左奥)



かけ、もう片側では「大阪市をよくする会」の男女四人が「大阪市を解体し、くらしをつぶす『都構想』『反対』『住民投票には『反対』と書いて下さい」と書かれた看板やゼッケンを掲げながら「反対」を呼びかけていました。

この中では、投票を済ませて「よくする会」の人たちに「『苦労さん』などと笑いかける有権者の姿も見られ、そのうちの一人が『反対』票を投じたという七十歳の男性は「難しいことは分からんけど、港区がなくなるんは嫌やからな」と穏やかな表情で話していました。

◆港曙では「勝手連」男性が演説

午後に入り、港曙小学校前ではオレンジのＴシャツを着た「大阪維新の会」の中年男性一人が、橋下市長の写真に「大阪都構想の住民投票では賛成を」と記した看板を示しながら通用門の片側で静かに立ち、もう片側では自民党府会議員の男性が「大阪の豊かな未来のために大阪市の解体・分割に反対しよう」の幟を立てながら「反対」を呼びかけ、その横では「無党派」^{からってん}「勝手連」を名乗る六十代男性(田中在住)が「大阪に『重行政はありません』『大阪市の長い歴史を断ち切つてよいのか』『政令市という核をなくして大阪の発展はありません』などと都構想の問題点を幾つもあげながら『反対しましょう』と大きな声で呼びかけていました。

この中で、「賛成」票を投じたという子連れの

四十代女性は「迷いましたが、元氣のない大阪が少しでも変わってほしいと思って…」と複雑な表情で話していました。

◆二先では市会議員が精力的に

同じく午後の三先小学校前では、オレンジのTシャツを着こんだ「大阪維新の会」の男女三人が正門片側で「みんなであつろろー新しい大阪を」と呼びかける橋下市長の写真を掲げながら「賛成」を呼びかけ、もう片側では山本長助市会議員(自民党)が「大切な大阪市を 大好きな港区を 守るのは、あなたの『反対の一票』です」などと書かれた看板を示しながら精力的



→田中地域で「反対」を連呼する「府民のカニ」
一五「グループ①」と、港晴小学校前で投票者に都構想の問題点をあげ「反対」を訴える男性②

に「反対」を呼びかけていました。

この中では、投票を終えた人が「大阪維新の会」メンバーに「くろろさん」とねぎらいの声をかける姿などが見られましたが、その一人で七十代の自営業男性は「うちには付き合いで自民党のポスターを貼ってる。大阪の自民党は『反対』やけど中央の安倍さんや菅さんは支持してはるからな。景気をよつするためには思い切ったことやらんと」と話していました。

◆市岡では「厳しい」と反対派

同じく午後の市岡小学校前ではオレンジTシャツの「大阪維新の会」の男女二人が正門片側に立ち、もう片側には「反対を」と大きく染め抜いたポスターを抱える男性一人と「府民のカニ」の看板を抱えた男性一人が「都構想に反対しましょう」と声を揃えていました。この中では、門前で出口調査をする共同通信記者から得た情報として「(反対派は)ちよつと厳しいみたいや」と語る反対派運動員の男性の深刻な表情が印象的でした。また「反対票を投じたといつ七十代男性(町会役員)は「橋下が市長になつてから地域活動協議会がでたりして

←池島小学校前で「賛成」を訴える「大阪維新の会」の若者ら①と、三先小学校前で「反対」を呼びかける山本長助市会議員②



息苦しくなってきた」などと話していました。

◆磯路では高齢女性が「反対」掲げ

同じく午後の磯路小学校前では、正門片側にオレンジTシャツの「大阪維新の会」の男女三人が幟や写真を掲げながら「賛成」を呼びかけ、もう片側では「大阪市をよくする会」の高齢女性が「住民投票では反対と書いて下さい」の看板を掲げながら椅子に腰かけていました。この中では「大阪維新の会」の若者の精力的な呼びかけぶり、投票者と親しげに話し込む「よくする会」女性の地域密着ぶりが印象的でした。この他にも読者からの報告として、例えば南

市岡小学校前では、港区の自民党幹部と兵庫県幹部が「市男さん」「後は頼みます」などとエールを交換しながら「反対」宣伝を引き継ぐ光景が見られたといっています。

◆区内全体が「政治サロン」に

またこの日は一般家庭や喫茶店など至る所で「都構想」についての話し合いが見られ、区内全体がさながら政治サロンと化したような雰囲気でした。そのうち磯路の「珈琲館 隠岐」では午後四時すぎ、高齢女性を中心に、大阪市の高齢者の置かれた正・負の状況や都構想のメリット・デメリットについての激しい意見のぶつ合いがいつ果てることもなく続いていました。

やがて午後八時に投票は締め切られ、区内十一の全ての投票箱は市岡中学校へ。九時に開票作業が始まりました。一転三転の逆転劇の末、十時四十五分ごろ、約二万票差で「反対」が賛成を最終的に上回ることがテレビなどで報じられ、「都構想」否決が確定。区内の「反対派」事務所や家庭が大きな歓声に包まれる一方、「賛成派」事務所や家庭には落胆の空気が流れました。いついつ「港区」で最も熱い一日は過ぎ、橋下

「市岡小学校前で投票者に「反対」を呼びかける男性」と、磯路小学校前で投票者に親しく話しかける「反対派の高齢女性」



氏の構想提示から五年にわたる市民論争の幕がようやく閉じられたのでした。

本紙主張

市と港区の未来のため

賛否越え総括運動を！

それでは、以上のように投票出口まで賛否が拮抗したこの間の市民論争から私たち市区民は何を汲み取るべきでしょうか。反対派は勝利におぼろず、また賛成派はいつまでも落胆に沈

むことなく、大阪市と港区の未来のため、主に次の内容をポイントに、真摯な総括運動をすべきではないかと本紙は考えるものです。

◆論争による切磋琢磨を財産に

第一に、市区民はこの間、実に真剣に大阪のまちづくりを考え、「賛成」「反対」に分かれながらも自分たちの意見を互いに切磋琢磨し合ったといっています。これは本当に得難い経験であり、橋下市長の「財界奉仕の実をあげて中央政界進出」という意図とは全く別に、市区民の政治水準は論争を通じて格段にアップし、今後の大阪のまちづくり、港区のまちづくりへの大きな財産となりました。

◆分断と対立の早急な克服を

第二に、にもかかわらず、その一方で、この間の論争を通じてもたらされた市区民間の分断と対立は相当に根深いものがあり、これを放置したままでは今後の大阪と港区のまちづくりはおぼつかず、早急に解消・克服する必要があるといっています。これは庶民にとっては自分たちの持てる力、とりわけ今回獲得した政治水準のアップを結晶できないといつ嘆かわしい状況で

ある反面、為政者たる日米財界にとってはその間隙を縫って自らの意図をたやすく実現できる、願ってもない好機となるからです。

◆ 共通の願い土台にまちづくりの追求を

第三に、以上のような止・負の両面を生み出したものは、賛否両派に共通の「大阪が良い方向に変わってほしい」という願いであり、これをこそ土台に今後の大阪づくり、港区づくりを追求していくべきだと感じています。強硬な賛成派も反対派も、また中間派や不明派も含めて「大阪が悪くなつてほしい」「港区が悪くなつてもいい」となると願う人は一人もいないはず。そんな善良な市区民の間に「大阪市を変えるための手段としてどちらを選ぶか」という形で、為政者たる日米財界の手先として分断と対立の楔を打ち込んできたのが橋下氏ではないでしょうか。ですから、その野望を見破り、乗り越え、力を合わせてこそ、財界本意ではない、真に庶民レベルのまちづくりは可能になると思われま

◆ 論争は引き続き解決へ追求を

第四に、だからといって、「」の間の論争で意見の鋭く割れた数々の問題点、例えば「府と市

で「重行政はあるのか」「大阪も東京のような都市づくりをめざすべきか」「住民に近い行政はどのような実現するか」「財界奉仕は庶民のためになるか」などについては、今回、都構想の是非に大きな決着がついたからといってそのままに放置せず、引き続き「二つ二つ」に議論し、解明し、結論を出し、市区民みんなの共有財産にしていってほしいと願っています。なぜなら、これらは今後形を変えて繰り返し出てくるはずの問題であり（実際すでに「総区」導入や「大阪戦略調整会議」設置という形で出されていますが）、その解決を疎かにしたまま都市づくりを進めていけば、必ずや早晚、再び庶民間に分断と対立がもたらされることは火を見るより明らかだからです。

◆ 国政改革をめざす中での根本変革を

第五に、最も重要な点として、地方行政は国政に大きく制約されており、国政の根本変革なくして地方の根本変革はあり得ないことを市民共通の認識にすべきだということです。なぜなら、大阪に限らず地方の全国的・継続的衰退は、戦後の歴代政府によるアメリカ言従をベー

スとした①大企業重視・中小企業軽視②商工業重視・農林水産業軽視③都市重視・農山漁村軽視の政治がもたらしたものであり、この巨大な流れを止めずして地方の再生はありえないからです。したがって、今回の熱く貴重な経験を市区民が本心に庶民本位に生かすためには、我が大阪市や港区を基盤としながらも、決してその狭い視野にとどまることなく、内外の大きな流れの根本転換を目指す運動の中でこそ大阪再生と港区再生を追求しなければならないということです。その点から今回の反対派の勝利を振り返れば、中央政策進出の野望を抱く橋下氏が、アベノミクスなど国レベルのアメリカ追従政治の地方版を、都構想やカジノ誘致という形で先陣切つてやるつもりだったのに対し、その臭い（か）を本能的に嗅ぎつけた私たち庶民が辛うじて拒否した——そんな構図が浮かび上がってくるのではないのでしょうか。

——以上が今回の「都構想」住民投票についての本紙なりの提起ですが、願わくは読者の皆さんが、それぞれの家庭や団体の中での総括の参考とされたいことを切に期待するものとします。

あさやけ

十二時はどうなるかと、いや一時はどうなるかと心配しましたが、「大阪で一番熱い二日」になった五月十七日、財界奉仕・生活破壊・地域解体・歴史蹂躪の「大阪都構想」は僅差で否決。「オースカ」市民はオーバカ市民かと危つく世界の笑い者になることを免れ、まずはひと安心。暫くは空の色も街の空気も、かつてなく爽やかに感じられたものでした。とはいえ同構想に賛成した人からは「何ゆつとねん。こつちも真剣に考えつてとどろろフリームがつきそうなので、この辺でやめときます」▼確かに「大阪をどうするねん」との考え合ひ、呼びかけ合ひは賛否を越えて実に真剣で熱い。その中で得られた市民の政治的高揚は、明治維新时期や戦後混乱期、安保闘争期に匹敵するところと言われています。ですから決して結果オーライではな

く、「大阪が、港区が、良い方向に変わってほしい」という普通の願いを土台に、この間に歴々とした知識や考えを生かし、本心に庶民の幸福に繋がる大阪づくり、港区づくりに力を合わせたものです▼かつてフランス革命で活躍したジャーナリスト、マラー（一七四二ー一七九三）はそうした庶民のパワーと健康さを評して自らの新聞『人民の友』で次のように語りました。「不幸な人々の階級（高慢な金持ちでもは賤民と呼んでいるが）は社会の最も健康な部分である。この汚辱の世紀にあつて、なお真理・正義・自由を愛している唯一の部分である。絶えず単純な良識に耳を傾け、…詭弁に惑わされず、甘言に誘われず、虚栄によつて腐敗されていない唯一の部分である。…なぜなら、生きるためには絶えず労働せねばならず、墮落する手立ても暇もないので、彼らは、諸君（王族・貴族）よりもずっと自然に近いままに留まつてゐるからである」と▼今回の住民投票では真つ心に割れたものの、我が港区や大正・此花・西淀川・生野・西成区のように、どちうかというマラーの言う「不幸な人々」が多く住む地域ほど「反対」が多かったのは、そうした人たちが「財界奉仕」といつ同構想の汚辱をより鋭くかきつけ、「重行政の無駄」といつ詭弁に惑わされず、「住民と行政の距離が

近くなる」といつ甘言に誘われず、「東京のように発展する」といつ虚栄に腐敗されず、むしろ真理と正義と自由を愛し、「庶民が築いた大阪市の財産と歴史を守れ」といつ良識で心を整えたからだと言へるかもしれません▼それはともかく、こつとした「健康な部分」によつて「正義」が示された以上、あとは議会と政党がその方向でリードしてくれることを期待するところですが、本紙としては次の言葉を肝に銘じています。「政党には党勢拡張、政権獲得などといった種々の病気が付きまわつて…。記者諸君は公平なる地位にあつて、各政党の正・不正を裁く裁判官であると同時に、政党が正義に向かつて進むことを躊躇する場合も、これを鞭撻し激励するの役目にある」▼これは新聞記者から政界入りした大養毅（一八五五ー一九三三）が日中戦争前夜、「護憲記者」の集まりで発した檄ですが、特に今回、本来なら実施せずに済んだ住民投票が中央政界との裏取引で復活したようなことが二度と起らぬよう、つまずき各政党が「種々の病気に罹らぬよう、読者の皆さんと共にこの役目を果たしたい」と期しています。

叫びたいよ!

こにし まさとし

小西 正敏さん (六三歳 田中)



介護保険の認定は

適切にされているか

私の母親は現在九十三歳で、介護度は「要介護1」。介護保険を利用して火曜と木曜の週二回介護施設で「デイサービス」を受けています。介護保険法によると、例えば母の場合、介護認定は三年に一度行なうことになっており、今年が認定更新の時期になっています。そこで今回も介

護保険事業者を通じて四月一日、保険者である大阪市に介護保険認定申請を行ないました。それに対する認定結果の通知は介護保険法第七十九条により「申請のあった日から三十日以内にしなければならぬ」となっています。

◆認定通知が期限内に来ない

ところが今回、通知が来ないまま期限の三十日を過ぎてしまい、同時に介護保険の認定期間も切れてしまったのです。その代わり、介護保険資格証の有効期限が五月一日から同三十日まで延長されました。

これにより、要介護度が決まらず、新しい介護保険証も発行されていない事態にもかかわらず、五月一日からはこの延長された資格証によって、とりあえずは従来通りのサービスを受けることができました。この点では家族として大変ありがたく、感謝を以て受け止めました。

しかし問題は、認定申請から一カ月以上経過しても認定結果が出されなかったことです。この点を電話で大阪市に問い合わせると「介護認定申請の対象者が多く、職員数も少なく、申請が提出されてもなかなか事務処理できない」「認

定調査員も多くの調査を抱えているので、なかなか訪問調査に回れない」とのことでした。

◆実態に合わない介護度調査

その上で介護保険についても一つ疑問に思ったのは、介護度調査の在り方です。調査員は一回で約一時間、訪問による聞き取りを行ないますが、ほとんどが初めての方で、聞き取り内容は厚生省の基準に基づく全国一律のものです。この調査について私はこれまで、身体や認知度の状況を本人や家族から聞き取り、それによって介護度を判定するものとはかり思っていました。が、実際には「介護にどれだけ時間がかかるかを見る調査」であり、しかも調査時点の状態だけが考慮されるのです。過去の介護度や認定状況が参考にされずに今の状態だけで判定され、結果として調査のたびに介護度が上下する——これはどう考えても実態に合った認定調査とは言えないのではないかと思います。

介護保険については他にも色々問題がありますが、とりあえず私の感じた一点について提起させて頂きました。読者の皆さんの忌憚のない感想・ご意見をお待ちしています。

あれこれガイド

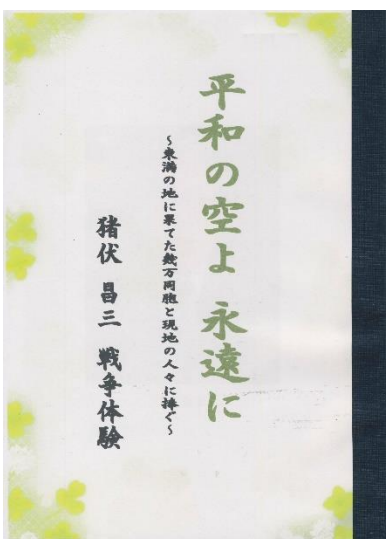
●戦争体験記『平和の空よ 永遠に』頒布 東

満州・延吉で終戦を迎えた十六歳の少年が日

本に帰り着くまでの波乱と苦難に満ちた体験を綴った感動の書。戦後七十年に鑑み、次世代に戦争の悲惨さと平和の尊さを語り継がんと

本紙二〇二二年五月〜二〇二四年 月に連載の「平和のため戦争体験語の継」つに加筆し、資料を添えて入魂の冊子化。希望者には五百円(送料・消費税込)で頒布。詳細は筆者・猪伏昌三さん(〒531-0074大阪市北区本庄東一

「平和のため戦争体験語の継」つに加筆し、資料を添えて入魂の冊子化。希望者には五百円(送料・消費税込)で頒布。詳細は筆者・猪伏昌三さん(〒531-0074大阪市北区本庄東一



→戦争体験記『平和の空よ 永遠に』。

←著者・猪伏昌三さんの少年時代(上)と近影(下)



四・一・二二三、TEL・FAX〇六・七五〇八一・二一七、Eメールmk5@w2.dion.ne.jp。著者はもと港区田中の住民。

●ワークみなと「東北食品市」 東日本震災で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が、宮城県産の材料を使用して、昔ながらの製法で作った体と心にやさしい豆腐・豆乳・青豆

豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から(売り切れ次第終了)▽ワークみなとは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所(夕凧一六・三、六五七二・七五二二)。

●ムチ打ち(省・腰 無料相談会 交通事故でムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談会。六月二十八日(日)十時十八時に行政書士

のむら事務所(築港二・七・一・六〇八)で。一人約一時間。事前予約制(電話かEメールで。『どついたら正当な補償が得られるかをアドバイスします』『事故後、早めの相談が良い結果につながります』(同事務所・野村光恵さん)。Eメールinfo@jiko110-nomura.com、TEL六五七六・六〇七六、FAX六五七六・六〇七九。

●港区私たちと戦争展 あの前戦争から七十年。次世代に戦争の真実を語り継ぎ、平和を送り継ぐため、三年のプランクから復活開催。日中戦争、国防婦人会、大阪大空襲、原爆投下、戦後復興、平和運動などの歴史を写真・絵画・遺品などで迎える。七月二十五日(土)二十八日(日)



→過去の「港区私たちと戦争展」から

に港区民センターで。展示充実へ戦前・戦中・戦後のアルバムなど資料の提供歓迎（終了後返却）。成功へ五百田署や広島掲載を募集。申し込み・問い合わせは主催の港戦争展実行員会磯路一・七・二「港生活と健康を守る会」内、☎六五七六・四八〇九へ。

●大正区「原爆と戦争展」

①第一次世界大戦の真実②沖縄戦・全国空襲の記録③原爆と峠三吉の詩④敗戦後の日本⑤広島原爆災害一等の写真や「戦争体験を語る集い」を通して、日本の現状をもたらし原爆と大戦の真実に迫り、平和で豊かな未来のために何ができるかを考える。



→大正区「原爆と戦争展」で展示予定の写真（一九四五年十月、広島日赤病院で被爆の治療を受ける女性）と昨年の「体験を語る集い」②

十四回目。六月二十七日（土）十八時、二十八日（日）十八時、大正区コミュニティセンター（大正区千島一・六・一五、市バス大正区役所前）の二階第四・五会議室で。入場無料。主催は大正区原爆被害者の会・大阪原爆展を成功させる会（TEL・FAX六三二四・一八四二）。

●障害年金もれの心当たりある人は相談を

障害者手帳を持つ二十歳以上の人のうち、障害年金を受けられるのに請求手続きをしていない人が相当数（身障者では〇・四割）約一万人にのぼることが厚生省の調査で判った（二〇一三年）。原因の大半は「障害者手帳に記載されている等級」と「障害年金の受給要件となる等級」にずれがあること。このため、例えば、実際には二級の障害厚生年金を受けられる程度の身体障害があるにもかかわらず、身体障害者手帳の等級が「四級一」であるため「自分は受けられない」と思い込んでいる場合などは、申請しなければ、いつまでもたつても支給されないことになる。心当たりのある人は市岡年金事務所（磯路三・一五・一七、☎六五七二・五〇三二）まで。

●石綿（アスベスト）パンフ

肺がん、中皮腫

←港区役所三階でもらえる石綿パンフ

その病気、その症状は
アスベスト
石綿が原因
かもしれません

ご家族に **肺がん**や**中皮腫** などて
亡くなられた方はいませんか？

息切れ、胸が苦しい などの
症状が出ていませんか？

石綿による疾病と認定された場合、各種給付を受けることができます。

◆お心当たりのある方は、以下の機関にご相談ください。

- お近くの労働基準監督署または都道府県労働局
- 独立行政法人 環境再生保全機構（ERCA）

厚生労働省 環境省 独立行政法人 環境再生保全機構

どの病気や、息切れ、胸の苦しさなどの症状や、それらによる死に「アスベスト（石綿）によるものだ」と認められたら、色々な給付を受けることができる。このパンフレット『その病気、その症状は石綿（アスベスト）が原因かもしれません』は、そんな人たちが家族のために、①石綿による病気にはどんなものがあるか②石綿による病気と分かった場合の補償や救済の制度にはどんなものがあるか③その場（市）へ問い合わせたりよいかなどを厚生省などがまとめたもの。港区役所（市岡一・一五・一五）三階の港区保健福祉センターのチャリスタンドに設置してあるものを無料でもらえる。

みなとサロ

いのちもどいてるのか？

池島・勝部 泰臣 八十二歳

昔、某任侠団体の親分が弁護士、「右」と「左」は、いっで区別するの、若し衆に説明してやっつて頼むだろー。

弁護士曰く。「例えば支那（中国）に入り込んでいった日本軍を侵略と見做すなら左。侵略でないとするなら右」と。かの親分、「よしモンに縄張り荒らされたら怒るの当たり前だ。俺らは左だ」と言ったが。極めて分かりやすい。

その愚行を「侵略」だと指摘する人々に「自虐史観」だとか「売国奴」とかの言葉を投げ付けるいっで自分を正当化しようとしているのが、今「歴史修正主義者」と言われる人々ではないか。ずっと戦争ばかりしてきたアメリカ。とつてこの対テロ戦争に行き着いた。その米軍への支援を「集団的自衛権」とやらで行使する状況になったら、あちこちに原発を持つこの国がテロの

目標にされるのは目に見えている。それこそ右でも左でもない、世界唯一の核被爆国の至極当たり前の「心配事」ではないか。

強引なまでの今の政府のやり方に民主主義の危機を叫ぶ人もいる。数の論理で、もしかつての愚行を繰り返す道へ進んで行くならば、われわれ有権者にもその責任はある。

戦争体験者が年々減っていく。いっで目を醒まさないと他国の嘲笑を浴びるぜ。

都構想「反対」の熱意感じた

市国元町・七十年代 元公務員

「都構想は大阪のためになるか？」(五月三十一頁)「橋下市長の利己的な政治野心の追及へ！」

(同四頁)及び「あさやけ」(同七頁)を読んで。「都構想は財界奉仕が目的」「大阪市の財産と歴史を守るために反対しよう」という書紙の主張と熱意が強く打ち出された記事で、その立場から都構想の問題点が具体的に示されていました。私も元公務員として、橋下市長の労働者敵視や何でも民間委託の姿勢、経営者感覚の強引な手法には退職後もかねがね危惧と反発を感じて

いたので、「よくぞ言ってくれたー」と喝采を送りたい気持ちで読みました。「重行政は理由ならぬ」「大阪びびるブーンはいらぬ」「住民との距離は遠くなる」「目的は財界の受け皿づくりか」という問題提起はほぼ理解でき、共感できるものでした。

ただ、欧米の新聞などはけいこつはつきりと自紙の政治主張や支持政党、応援政治家などを打ち出しているの、日本の地域新聞がそれをしていけない理由はないとは思ふものの、やはり地域には色々な方がおられるので、そうした読者が主張の強さを嫌って離れはしないかと、少し心配になりました。

ナチスと重なった橋下維新

港の加勢大周 三十代

五月の「都構想」住民投票の結果は、反対票と賛成票がほぼ同数だったことから、都構想が明らかに否決されたとは言えない。しかし逆に言えば、もちろん可決されたわけでもなく、橋下維新は反対派に負けはしなかったが、勝てなかったこともまた明白である。この意味は極め

て大きく、四月下旬の大阪府下の三市長選での維新派候補全滅と告げれば、これまでの「橋下マジック」「常勝維新」といったイメージが大きく崩れたことは間違いない。

かつてヒトラー・ナチスは大衆の心を巧妙につかんで急速に勢力を広げ、非人道的かつ反動的な政策を押し進めていったが、内外からのさまざまな反撃にさらされ、「第三帝国」構想はあきらめ、ヒトラーもナチスも泡のように消えてしまった。橋下維新も、また米国や日公政権も同じような末路をたどるのではなからうか。彼らが重なるって見えるのはなぜだろう。

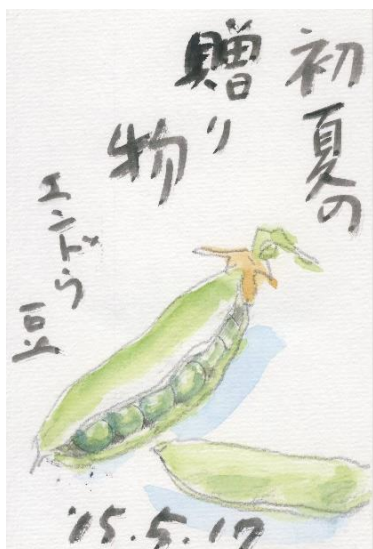
「何のために勉強」示した森友提言

（二先・六十代 商店主）

いつも「叫んでいいともー」欄をまず読んでいます。五月四日では「学びの意義と秘訣」示し子供たちに生まれる力を」といつ森友建さん^{もりともけんさん}の提言（八頁）に感銘を受けました。

単に学力向上を呼びかけるのではなく「何のために勉強するのか」「どんな姿勢で勉強するのか」「何が大切だと訴える内容で、出世競争や

「辻悦子さん（市岡元町）からの絵手紙」



国際競争に勝ち抜くために、とにかく成績を上げればいい、レベルの高い高校や大学に合格しさえすればいいという、今の日本や世界の風潮へのやんわりとした、しかし大変鋭い問題提起になっていたように思います。熊沢番山^{くまざわばんざん}に発された天野教授や、人生モデルを示したホプキンスさんのエピソードは、特に具体的に啓蒙的だと感じました。

私自身も子供のころ、先生方がただ知識を教えるだけでなく「勉強はなぜしなければいけないのか」をもっと、絶えず、くどいほど心に刻んでいて下されば、もう少しましな生徒に、さらにはもっとまともな社会人になれたのでは

ないかと、かなりの悔しさをもって振り返っているところです。もっとも、まともな社会人になれなかったのは、学校卒業後の自分自身の努力の足りなさが一番の原因だとはい覚しておりますが…（苦笑い）。

「港地域メーデー」に元気をもらった

（夕丘・四十代 自営業）

たまたま出前に出て「港地域メーデー」のデモ行進に出会い、元気なスローガンに耳をそばだて、なんとなく元気をもらった気分になりました。子供のころから港区ですが、みなと通でデモ行進を見たのは初めてです。

路上ではよく意味は分かりませんが、港新聞で記事（五月号十八頁）を読んで、戦争や消費税や格差拡大や都構想のことなどをあげていたと知りました。港同僚のあいさつなどはちょっと難しい内容でしたが、労働組合は賃上げや首切り反対だけでなく、消費税や福祉など、みんなの生活問題も扱っていているのがわかり、良かったです。

当日、取材しておられる港新聞さんと顔を合

わせ、声をかけてもらったので、したない感想ですが、寄せせていただきました。

「戦争体験」杉原さんに感謝、感謝

（八幡屋・四十年代一見の母）

杉原麻子さんの「戦争体験」（五月号四十一頁）が終わり、ずっと読み続けてきた者として寂しさはありますが、今はただ「お疲れ様でした」「ありがとうございました」と感謝で一杯です。

最終回では、帰国の喜びと共に、戦後の七転八起きの人生も語られていましたが、特に青春時代に取得された看護婦資格を生かして再び病院勤めをされたこと、子育て経験を活かしてベビーシッターにも挑戦されたことが、前向きな強い女性として心に残りました。

そして、結びで語られた「戦中・戦後の忍従・苦闘の体験は、どんな苦難にも堪えられる強い精神力を私に与えてくれました」との言葉は、昔とはまた違った苦労のある今の社会を生きている私たちへの叱咤激励であり、「戦争のない平和な世の中が続き、誰もが笑顔で暮らせる心豊かな社会が来る」とを祈っておりますとの言葉は、

戦争を近づけつつある今の政治への心底からの警鐘であると受け止めました。

最後に、今はまだ主人との旅先でのツーショットの穏やかな笑顔。お二人の人生がこの中に凝縮されているように感じ、胸が一杯になったのは私だけでしょうか。

武道の爽やかさを感じたインタビュー

（波除・六十年代無職）

テレビ番組『おれは男だ！』（一九七二～七三年、森田健作主演）の影響で、高校時代に剣道を少しかじったので、「清く正しく逞しく」港区民剣道大会、熱戦の中に礼節（五月号二十八頁）に目が向きました。

壮年剣士・青年剣士・女性剣士・少年剣士へのインタビューがどれも良かったです。今はどのスポーツも勝敗第二で、東京五輪も金メダルの数ばかり問題にされ、最近では相撲・柔道・剣道などの武道までが人格形成という原点を忘れている中、「礼に始まり礼に終わる」「歳をとっても自分のペースで続けられる」「内面を磨く場になる」などの言葉に武道本来の爽やかさが感

じられ、心洗われました。

押し入れの奥に眠っている防具をまた引っ張り出そうかな、なんて考えています。

画家としての助け合いに感謝

（港晴・五十年代主婦）

描くのは大好きですが、観るのは好きなので、芸術関係の記事には目が留まります。その中で、ギャラリーはたなかでの「絵画五人展」（五月号三十四頁）からは、体調を崩した一人を物心両面で励ますために企画されたということに感銘を受けました。互いにライバルでもある画家たちのそんな温かな友情が、何点が載せられている絵にも表われているように感じられました。

もう一つの芸術記事である、夕凧の書家・井後さんの作品展（三十八頁）では、「限られたスペースにバランスを考えながら字の意味や思いを込める」ところに喜びと難しさがある。「その時々」の季節・天候や気分が字や彫りに表われるところに怖さと楽しさがある」といふ言葉に、書や篆刻の奥深さを感じられ、今度開かれるときにぜひ鑑賞したいと思いました。

猫ふやさず共存を！

「築港町猫倶楽部」活動つづく



→「野良猫サポーター募集」などの掲示板(右手前を立ててホットドッグを売る「築港町猫倶楽部メンバー」五月二十三日、築港三丁目で

「野良猫をふやさず、地域で共存できるよう

一緒に行動しましょう」と呼びかける「築港町猫倶楽部」が地道に活動を重ねています。五月

二十三日(土)には築港三丁目で資金作りのためのホットドッグ販売を実施、道行く人に「町

猫」の周知と理解、協力を訴えました。

● 地域の苦情や殺処分に心痛め

同倶楽部は一昨年末、野良猫保護を続ける個人の自由な集まりとして発足。不用意な餌やりによる異常繁殖と環境汚染、地域の苦情、その

一方での保健所による殺処分に心を痛め、①地域の野良猫(町猫)の不妊・去勢手術を普及する②町猫の二代限り・一生の保護・管理を行なう③町猫の考えを広める」を目的として、主に築港

地域で活動。その中で昨年は八十二匹を捕獲・手術すると共に、放置エサ片づけと合わせて清掃も続けるなど、地域美化にも貢献。今春には

①別組織SNSを通じて猫九匹の里親が決まった(同倶楽部として里親探しはしていない)②

入舟公園近くの店主が店前でのフリマ協力を申し出てくれた一等の進展があったそうです。

● ホットドッグ販売で協力呼びかけ

この日は資金作りイベントの六回目。築港の

メインストリート「花の海遊ロード」の喫茶「馬酔木」前に朝から夕方まで、この日の担当女性一人が店を出し、ホットドッグ(二百円)、サ

ータンダギー(沖縄の菓子、一百円)、シュース(二百円)、ゼリー(三十円)、飴(五十円)など

を販売。買い求める観光客や地域の人々に「町猫パンフ」を手渡すなどして支援を呼びかけ、「頑張っ

てね」などと声をかけられていました。

● 皆が気持ち良く生きられる地域に

同倶楽部のN・Mさん(築港)や、天保山公園で「公園ねこサポーター」(野良猫をふやさな

いよう適切な餌やりや不妊・去勢手術を行なう市公認ボランティア)としても活動する尾崎妃

努子さん(池島)、猫リスト作成などの実務や広報を主に担当する正岡智美さん(築港)らは「人も動物も、猫好きな人もそうでない人も、みんなが気持ち良く生きられる地域になるよう、こ

れからも『町猫』の考えと行動を広げていき

たい」と意欲を見せていました。

「町猫」についての問い合わせは同倶楽部の録音専用電話、☎〇五〇・五八三二・五〇七三へ。

熱戦支える技に磨き

区バレー連盟が審判講習会



→「相互審判でバレーボールの楽しさを皆のものに」と開かれた審判講習会(写真は記録員の指導風景) Ⅱ五月十日、港スポーツセンター

「スポーツの楽しさは正確・俊敏なジャッジから」「相互審判(出場チームが交代で審判に当たる)の普及でバレーボールの喜びをみんなのものに」と五月十日(日)、港スポーツセンターでバレーボールの審判講習会が開かれ、三十五人が審判や記録の技術を学びました。港区バレーボール連盟主催で二十回目。

◆ ハンドシグナルや記録など学ぶ

一つの試合には主審一人、副審二人、線審三ラインズマン、四人、記録員一人、点示員一人の計九人から成る審判団が必要なことから、講習内容もそれに沿う形で進行。特に今回は「瞬時に公平なジャッジが出来るようになること」を目的に、午前十時から午後四時ごろまで続けられました。

まず、全員が今年度のルール改正箇所などの説明を受けたあと、審判二十八名と記録九名に分かれ、さらに実技経験回数の多少で二グループに分かれて講習開始。①ハンドシグナルの正しい出し方②笛の正しい吹き方③判定が難しいオーバーネット、ボールイン・アウト、ホールディング、ドリブル、ワンタッチなどの見方④審

←主審と副審の緻密な連携①、線審の俊敏な判断②は試合の進行を促進する重要な要素だ



判団各員の位置の取り方⑤審判団内の連携の仕方などを、指導員の模範実演や模擬試合での実技練習を通して学びました。

指導には大阪府ママさんバレーボール連盟の講師四人が当たり、区連盟の四チーム(港南SEED、港中OB、A UNTS)が模擬試合を行なうて講習を助けました。

◆ 「審判の重要性を痛感」と山下さん

受講者の一人、山下美和子さん(三三)は記録だけをきめて四回目の参加。中学、高校で六年間、バレーボール部で活動し、結婚して長男が幼稚園の時、友人に誘われてママさんバレーを始めたそうです。現在は三先地域のママさん

チーム「M-S-A-K-E」に所属し、セッターとして活躍。終了後、次のように話していました。

「審判のジャッジ一つで試合の流れが変わることもあり、改めて審判が重要であることを痛感しました。これまで副審の動きが特に苦手でしたが、今回、ネットプレーでのシグナルの出し方、移動の仕方、ベンチコントロールなどを再確認することができました。また主審と副審のアイ・コンタクトの大切さも実感しました。この講習で学んだことをチームで共有し、チームメイトにも審判の重要性を一層分かってもらえたらと思っています」。

◆「アイ・コンタクト意識して」と杉森さん

同じく受講者の一人、杉森文代さん（弁天は昨年）に続いての参加。子供の小学校入学時に友人から勧められてバレーを始め、現在は弁天小学校PTAチームと弁天地域のママさんチーム「弁天クラブ」に所属し、アタッカーとして活躍。終了後、次のように話していました。

「二年ぶりの参加でしたが、少し忘れていたところもあり、変わっているところもあったりして、なかなか思っようには出来ませんでした。

←点示員として点数表示に取り組み参加者①と模擬試合で審判講習を支える選手たち②



次回はもっと落ち着いて、先生の言われたアイ・コンタクトを意識することを課題にして受講してみようと思いました。とりあえずは十一月の親善試合で主審が副審を担当する予定なので、今日の講習を思い出し、生かしていきたいと思っています」。

◆着実に広がる相互審判

港区バレーボール連盟によると、港区では同連盟が発足した一九九二年から西原隆司、西林充子、萩野久美子の歴代会長のもと、相互審判を重視して講習を開始。区の東西に分かれての講習会や地区単位の講習会、記録だけの講習会などを積み重ね、二〇〇九年からは今回のよう

な全区的講習会を春・夏の年一回に増加。こうした継続的取り組みの中で、相互審判は着実に広がりを見せているといわれています。

講習を終えた同連盟の数下俊文会長や浜口伊知江副会長は「いつも言っているようですが、一人一人が責任をもって何か一つ覚えて帰り、次回には同じ注意をされないようにしてほしいと思っています。まだまだ課題はありますが、全体としては年々上達しているようです。こうした積み重ねで相互審判がさらに広がり、生涯スポーツがみんなのものになればと願っています」と話していました。

とにかく得電ねん!

LED照明に 換えてみませんか!

コスト減 + 環境貢献
(電気代カット・驚異の長寿命) (CO2を削減・有害物質ゼロ)

- 割れない、熱くない、すぐ点くなどのメリットも
- 店舗、工場、オフィス、家庭、屋外、公共施設に
- 場所や用途に応じてタイプ色々、取り替えも簡単

中小企業で世界初の全社屋LED化<見学歓迎>

前田機械(株) LED事業部
(LED照明・企画販売)
市岡元町2-3-28 ☎6582-5010
<http://www.maedamachine.com>

悪条件の中で白熱戦

区老連・倉森グラウンド・ゴルフ大会



→雨模様の下で白熱戦が展開された港区老人クラブ連合会「会長杯グラウンド・ゴルフ大会」 Ⅱ五月十二日、八幡屋公園多目的広場

雨模様の下で高齢者が白熱のクラブさばき。五月十二日、八幡屋公園多目的広場で開催された「会長杯グラウンド・ゴルフ大会」

には腕自慢の九十八選手(男五十二選手、女四十三選手)が出場、悪条件の中、優勝をめぐる熱戦が展開されました。港区老人クラブ連合会(原田壽会長)主催で十四回目。

◆森さんと日高さんが優勝

試合は十八グループ(それぞれ男女混合の五〜七人から成る)に分かれて各三ラウンドが行なわれ、その総合得点が個人レベルで競われました。一ラウンド終了直後に雨が降り出す中でも続けられ、昼前に終了。慌ただしく表彰式が催されました。

表彰された上位入賞者は次の通り(敬称略)。

男性の部 Ⅱ①森本 静②岡田政勇③林田 不士男④神田弥一⑤原田忍⑥浅野利夫⑦川畑重吉⑧大森慶孝 女性の部 Ⅱ①日高安子②前川輝子③中原愛子④大村艶子⑤横川豊子⑥吉原三千代⑦中川朱美⑧岡田杏子

なお三位までの六人は、六月に入って大阪城公園で開催された「第十回大阪市老人クラブ連

合会グラウンド・ゴルフ大会」に出場しました。

◆「交流が楽しい」と男性くの森本さん

男性優勝者の森本静さん(八二)は田中在住。Ⅱは終了後、「悪条件の中で皆さんスコアを落とされる中で、運が良かったです。優勝は二〜四年前の秋大会、昨年の春大会につづいて三回目だと思います。週四回この広場で練習してきた積み重ねの成果が出たのかもしれませんが、グラウンド・ゴルフを始めて八年ほどになりますが、気持ちの良い方々と交流できるのが何より楽しいです」と話していました。

◆「個人プレーが気楽」と女性くの日高さん

女性優勝者の日高安子さん(七七)は夕凪在住。Ⅱは終了後、「スコアが悪かったのでまさかと思いましたが、皆さんも悪い中で、ホールインワンが一回出たのが良かったのでしよう。優勝は平成十九年以来二回目。とても嬉しいです。グラウンド・ゴルフは個人プレーなので、気楽にお喋りしながら楽しく回れるところが魅力。六十五歳の時に始めましたが、紹介してくれた友だちには心から感謝しています。これからも楽しく続けていきたいです」と話していました。

漢詩の世界 肚の底から

港区詩吟連盟が合同吟詠大会



→ 百人超が鍛錬の成果を披露した港区詩吟連盟主催 各流派交歓合同吟詠大会（写真は開会式での合吟風景） 五月六日、港近隣センター

奥深い漢詩の世界を肚の底から。五月六日（水祝）に港近隣センター（八幡屋）で開催された「各流派交歓合同吟詠大会」には区内外の七会派・百余名の詩吟愛好者が参加、日頃の鍛錬の成果を披露し、大きな高揚を見せました。港区詩吟連盟（森鷹林理事長）の主催、港区老人クラブ連合会（原田壽会長）の後援で「王」回目。

★七流派の会員が次々と

大会は午前十時に開会。全員での国歌斉唱や同連盟会歌、賛歌合吟などの後、哲泉流 賀城錦城会、鷹詠館明朋吟詩会、関西吟詩文化協会、粹心流星華吟詠会、大阪岳風会、詩舞聖翔会の各会員が次々と登場。見事な槍を手にした武士の心意気を詠った『名槍日本号』（松口月城作。勝部泰臣さん、若永丁泉さん吟）、風雪に耐えた花の美しさを詠んだ『寒梅』（新島襄作。長永妙朋さん吟）、江戸無田開城に及べた勝海舟と西郷隆盛を讃えた『両英雄』（徳富蘇峰作。真鍋英明さん、高橋星将さん吟）、国のため刑場に死す忠誠を誇った『辞世』（吉田松陰作。木村岳尚さん吟）、琵琶湖南部の風情を愛でた『近江八景』（大江敬香作。富山廷泉さん

吟、中嶋秀扇さん舞）など、鍛錬を重ねた詩や舞を、高久野澎童さんの尺八伴奏も得ながら流れるように披露。夕刻には長谷川晃耀大会顧問、細川三城、星野岳常、山田星元、富山廷泉の各大会副会長、後藤星匡大会委員長、森鷹林港区連盟理事長らが登場。貧富を問わぬ交わりの尊さを詠じた『貧交行』（杜甫作。森理事長吟）など田熟の朗詠が掉尾を飾りました。

また、午後には田端尚伸、港区長や区選出国・府・市会議員らが来賓挨拶に立ち、「来年も再来年もお元気で開催を」と祝辞を贈りました。

★詩吟の楽しみ 地域へ次世代へ

大会を終えた森理事長（七〇）は「最盛期には参加者が二百人を超えましたが、近年の国語軽視・漢文軽視の中、何とか続けている状況です。が、だからこそ味わいある漢詩の世界を肚の底から詠い上げる楽しみを、地域へ次世代へ広げていきたいと思っています」と話していました。港区詩吟連盟では「興味ある方はぜひ」連絡を「と呼びかけています。問い合わせは同連盟事務局（八幡屋 一・三・二六、☎六五七二・二七二〇、島津屋豆腐店・森さん）まで。

幻想的な色彩美に人気

ナカイグループ「ガラスアート」展



→微妙に変化する幻想的な色彩美が好評だった
「ガラスアート ナカイグループ生徒展」Ⅱ五
月十四～二十四日、池田市緑のセンター

自然光や照明の角度で微妙に変化する幻想的な色彩美が人気の芸術「ガラスアート」。その愛好者の作品を一堂に集めた「ガラスアート ナカイグループ生徒展」が今年も五月十四日から二十四日まで池田市緑のセンターで開催され、約六百五十人の来場者で賑わいました。ガラスアートの創案者である中井芳夫・アツコ夫妻が主宰する「ガラスアート・ナカイ本部」（箕面市）の主催で二十七回目。

「地域に密着した文化を育てたい」と京阪神各地で活動するナカイグループの教室から、港区の「ガラスアートNAOMI教室をはじめ、神戸市・奈良市・宝塚市・箕面市の各教室主宰者とその生徒、二十四人二十代～七十代の力作、合わせて四十七点が展示されました。旅の思い出や花、風景などをモチーフにしたユーモアのある作品が多く、鑑賞に訪れた人たちは、作者一人ひとりの個性豊かな発想を楽しんでいました。

★ ルーツは京都手描き友禅

ガラスアートのルーツは江戸時代、京都の絵師・宮崎友禅齋によって開発された京都手描き友禅。その彩色師をしていた中井夫妻が一九八

「出展作品から『ガラスアートほおずき』①と『ガラスアートさわやかな朝』②（いずれも金元奈保美さん作）」



六年、この伝統技法を応用して一枚のガラスに描く技法と画材を開発、「ガラスアート」と名付けた。「絵を描いたことのない人でも気軽に楽しめるように」と、色は三原色と白・黒・銀の計六色、筆の代わりに竹串一本、パレットはプラスチックカップ一個。「ガラスの上で色あそび」といった感覚のシンプルでユニークな技法が注目を集めています。

★ 「私もやってみたい」と来場者

来場者からは「スチンドグラスとは全く違うんですね。竹串で色を入れるって本当ですか？ 見れば見るほど面白いです」（宝塚市・男性）「ほのぼのとした作品が多くて楽しい雰囲気伝わってきます」（箕面市・女性）「どの作品も個性があ

り、見ていて飽きない。簡単にできるらしい、私もやってみよう(京都市・女性)「ガラスアートが教科書に載っているんですね。箕面市郷土資料館に行ってもある実物を見てみたい」(池田市・女性)「皆さんが楽しんでいるのが伝わってきて、こちらも楽しくなります」(和歌山市・男性などの声が聞かれました。

「照明での変化」に感動した出品者

一方、出品者からは「絵を習ったことのない私が初めての作品を発表し、たくさんの方にお褒^ほめの言葉を頂きました。今までにない経験ができてとても幸せです！」(豊中市・三十代女性)「作品を家で見ているのと会場で見るとでは大違い。照明でこんなに変わるのかと感動しました。何度見ても幻想的で不思議です」(大阪市・四十代女性)「昨年の展示会を見て習い始めました。どんな色になるか楽しみつつ続いています。人との出会いもあって楽しいです」(奈良市・五十代女性)「手先を使うとボケ防止になると聞いて始めました。レッスン中は手より口が動いている方が多いけど、ちょっとは上手になったかな？」(自称「ダイヤモンドシルバーク

←ガラスアート・ナカイグループ主宰の中井夫妻と各教室の人たち①と賑わう会場②



「自分を表現できる」と金元さん

恒例イベントを終えた金元奈保美さん(港区の「ガラスアートNAOM」主宰)は「今回も多くの皆さんに見て頂き、感謝しています。絵を描いたことのなかった私でもガラスアートなら簡単にでき様々な体験をさせて頂いています。コミュニケーション不足がいわれる時代ですが、ガラスアートを通じて自分を表現し、多くの方と会話を楽しめるようになりました。また今年、

私の生徒さんの中から教室を始める仲間も生まれ、とても嬉しく思っています。彼女とは九月に心齋橋で二人展(左に案内)を開催することになりました。これからもガラスアートを通じて「コソコソ地道に港区文化の発展に努めて参りたいと思っています」と話していました。

●ガラスアートNAOMー 磯路二一〇

一九・一〇〇四、☎六五七六・一三四四金元

●ガラスアート・ナカイグループ 金元奈保

美&飛垣美香 ガラスアート二人展 九月十九

〜二十一日、心齋橋(地下鉄なんば駅下車)で開催予定

記念写真は写真館で

誕生日も父の日も お宮参りも百日も

みなさまの写真スタジオ

三上写真館
Photo Studio MU

三上写真館 磯路2-3-14(市岡中前)木曜定休 ☎0120-813788
http://www.photostudio-mikami.com

至弁天小頭 港防署 弁天町駅 港防署 弁天町駅 港防署 弁天町駅 港防署 弁天町駅

「日常のかたち」テーマに

ガレリア・リバリアで 花山さんが初個展



→ 心落ち着く画風が好評を博した「花山美和子 作品展」(写真は作品『日常のかたち』と作者) 〓 五月下旬、三先の「ガレリア・リバリア」で

「日常のかたち」をテーマにした田中在佳の主婦画家・花山美和子さんの作品展が五月下旬、みなと通(三先)「リーニッドの画廊」ガレリア・リバリアで開かれ、多数の鑑賞者で賑わいました。

◆ キュビズム採用 川島さんから指導も

花山さんは少女時代から絵に興味を示し、社会に出てデッサンを研鑽。結婚後、子育て期中断を経て四十代に再開。家事や家族の介護にも携わりながら、専ら静物を題材に創作。新分野開拓で知られる「元会」の準会員として〇八年から大阪支部展や全国公募展に出品し、グループ展も五回。ピカソを始め、現代日本の代表的洋画家・島田章三氏(国画会)が日本的に発展させたといわれるキュビズム分解→再構成を採り入れるなど独自の画風を模索してきました。

一三年十一月からは、平和の願いをキャンバスに込めて絵画人生を送ってきた八幡屋の川島恵美子さん(八四)からも回画廊アトリエで指導を仰ぐようになり、その川島さんに勧められて今回が初めての個展。この間の作品から『花のある部屋』『窓辺の静物』『花の楽器』『母と子』『ひるね』『若者』『花と果実』など大小の油彩

← 展示作品から『ひるね』①と『卓上静物』②



画二十数点とデッサン数点を出品しました。

◆ 「ひととき心の落ち着きを」と花山さん

「日常のかたち」を主題に、どの作品も身近な素材を落着いた色彩と独特の構図で表現。このうち長女家族が寝転ぶ『ひるね』からは何気ない日常にこそ家族の幸せがあることが、花や楽器の載るテーブルを描いた『卓上静物』からは見慣れた物の中にこそ生活の潤いがあることが伝わり、温かな気持ちにさせてくれました。

花山さんは作品を案内しながら「慌ただしい生活の中で観る方にひとときでも心の落ち着きを感じて頂けたらと描いてきました。構図を決める過程は苦しいですが、決まれば楽しいです。川島先生からは色の濃淡や線の描き方などで鋭い助言を頂いています。この展示会を機に、これから構図にさらに工夫を加えるなどして描いていきたいです」と話していました。

永遠の若さテーマに

石炭倉庫で『舞台女優』好評



→ 切なく幻想的な雰囲気です魅了した『舞台女優』

Ⅱ 五月下旬、波除の石炭倉庫で（写真はヒロ

イン・秋子を演じるあんがいのまるさん左）

「永遠の若さをテーマにした幻想的な舞台に

魅了されました」。五月二十三日、波除の自由空間「石炭倉庫」で上演された『舞台女優』が好

評を博しました。庶民の優しさや逞しさ、社会的メッセージを込めた演劇を世に問い続ける

あんがいのまる一座が、四年前に他界した座付

き作家・綾羽一紀さんの命日に合わせ、綾羽さ

んの脚本（原作はJRO出版『ガラスの黙示録』

収録）、あんがいのまる座長の演出で熱演。同座

長がヒロインを務め、ヨシシー・原本さんと八上

祐子さんが助演。音楽家の大川真一郎さん（フ

リネット）と吉田雅代さん（ピアノ）が生演奏

で特別出演しました。

❤️ 思い出とに若返る女優

— 舞台生活八十周年の巡業先・神戸を訪れ

た村松秋子（あきこ）は八十歳の老女優。オフエリア、

カチューシャなどあらゆる女性を演じてきた。

ホテルの一室に戻った秋子は古いルイ・ヴィト

ンのトランクを見つめる。中から出てきたのは

五十三年前の古瀬和彦からの何通もの恋文。そ

こには秋子の役者としての成長と、愛の形が具

体化されていく過程が綴られていた。二人で歩

いた神戸の街。「いつか紅葉の京都へ」「上海へ

は船旅で」と誘った和彦。秋子の夫である演出

家から和彦への手紙もあった。手紙は、和彦は、

何を伝えにきたのか。思い出が甦ることに若

返る秋子。和彦が神戸でくれた不老不死の月の

兎の力なのか。いつまでも若さと美しさを失

わない女優の、夢のような舞台は続く――。

❤️ 幻想の別世界に遊び

切ない思い出の中に夢のような世界が広がる

綾羽さん得意のファンタジックワールド。生演

奏をバックに物語が進む大胆奇抜な構成。モー

ツァルトなどの典雅な調べが醸す気品。いかに

も舞台女優を思わせるヒロインの華やかで凛

とした佇まい。室内で手紙を読み続ける単調

さを単調と感じさせない起伏ある台詞回しと身

のこなし。ラストのドレスアップの息を呑む美

しさ。そつた空気全部が夢的で、観る者

をしばし別世界へ遊ばせてくれました。そして、

老いも死もない明浄な世界への憧れを通して

病苦と貧乏と戦禍にまみれたこの世の不条理が

自ずと浮かび上がり、常に社会や人生を問う一

座の姿勢を読み取ることもできました。

演劇ガイド

● あんがいがおまる一座『文月物語』 波除のフ

リースヘース「石灰倉庫」を拠点に庶民の優しさや逞しさ、社会的メッセージを込めた演劇を世に問い続けるあんがいがおまる一座によるスタジオ公演。——ある老作家が、若い編集者の会話から、日々の感動が脳の老化防止になることを知る。「人間の脳には一十億の神経細胞が死ぬまで活動している。それが元気で活動している限り、脳は衰えない。だから、脳を楽しませてあげよう」と。加齢による体力の低下と氣力の衰えという、誰にも訪れる老いの光景とそこから再生の物語を通じて、高齢社会での生き方を問いかける——。同劇団の座付き作家であった故綾羽一紀さんの原作・脚本をあんがいがおまる座長が演出。出演はコッシー原本さん、ハ上祐子さん、後藤星昭さん、ハ上莉子さん。バック音楽はムソルグスキー『展覧会の絵』。七月四日(土)十四時、十六時半、五日(日)十三時、十五時半の四回。前売 二千二百円、当日 二千八百円。問い合わせ:申し込みは会場の石灰倉庫(波除ハ・五・一ハ)R井大町駅から国道四二

号を北へ直進、安治川堤防突き当たり右すべ。

☎ 六五八一・〇六六四、FAX 六五八一・二六

七〇、チケット専用フリーダイヤル〇二〇・三三四一・三九へ。〈読者プレゼントあり〉

● 劇団はぐるま座『動けば雷電の如く 高杉晋作と明治維新革命』 勤労人民の立場に立った演劇活動が続けてきた同劇団の最新作。『安政の開国』に抗して世直しと独立を成し遂げた誇り高き人々を描く。——激動の幕末。日本侵略

を狙う欧米列強の圧力に屈服する江戸幕府。長州征伐を前に敗北主義に陥る長州漢俗論派。その中で高杉晋作と救国の志ある農民・商人・藩士らは「奇兵隊」を結成。国のため万民のため、親を捨て子を捨て、民族独立の旗を掲げて僅か七十名で決起する。俗論派を打ち破り漢論を統一した長州藩は、四万面から十数万で襲いかかる幕府軍を四千余りで迎え撃ち、撃破。遂に明治維新の夜明けを開いた——。個人より国の根本的利益を考えて立ち上がった高杉ら下級武士と農民、商人たちの姿に感動した「これこそ本物の維新だ」描かれている幕末が、TPR、都構想など今の日本や大阪と重なり、私た

「七月に上演予定の劇団はぐるま座『動けば雷電の如く 高杉晋作と明治維新革命』から



ちは何をすべきかが分かった」「台詞、動作、照明、転換など全てが力強く、演劇として見事」等々、すでに鑑賞した市民が感想。主催は大坂公演実行委員会、後援は大坂市教育委員会ほか。七月九日(木)十八時半からワレオ大阪南(平野区、地下鉄谷町線「喜連瓜破駅」①出口から北西へ歩五分)で。七月十二日(土)十四時から大阪市立こども文化センター(西区、地下鉄「西長堀駅」⑦出口から北へ四十分)③出口から南へ五十分)で。一般三千五百円(前売三千円)、中学生千八百円(前売五百円)、小学生千円(前売八百円)。問い合わせは☎ 六九一五・八三六六(同劇団大阪事務所)へ。〈読者プレゼントあり〉

ライブ情報

● 八幡屋出身のロックドラマー 桐田勝治さん きりたかつじ

日本のハードロックバンドのトップを走り続ける人気バンドに所属。「周りを元気づける灯台のようなミュージシャンに」と演奏に磨き。港中学校出身▽所属バンド「ガゴイル」の十八枚目のアルバム『げしき解識』(「おんりえと厭離穢土」涙の価値」など十二曲)好評発売中▽七月十日(金)十八時半から江坂ミュージアム吹田市豊津町一〇・一五ライブラザブーミン五階、地下鉄江坂駅⑧出口歩二分 **8**・**6**・**3**・**7**・**0**・**0**・**0**・**0**で他バンドとの合同ライブに出演予定▽七月十一日(土)十八時半から大阪ミュージアム中央区心斎橋筋一・五・六ミューズ389ビルでガゴイル二十八周年ライブ「王蜂-KING BEE」に出演予定。



→ 桐田勝治さん(上)とバンドメンバー(下)

● 三先のフォーク歌手、ペドロさん 切断フラザ

ース(左手親指切断の共通体験を持つ)三人で結成のリーダーやソロで温かな雰囲気のアリジナルフォーク▽毎月第一・三木曜 千時サ・セラ(中央区西心斎橋 一・一七・二三新スミヤビル地下、**8**・**6**・**2**・**2**・**6**・**4**・**3**・**7**)▽毎月第一・三曜 千時半ロージー(中央区西心斎橋 一・九・五日宝三ツ寺会館地下一階、**8**・**6**・**2**・**3**・**3**・**9**・**9**・**9**▽毎月第三火曜 千時かつおの遊び場(中央区宗右衛門町四・五宗右衛門町センタービル一階、**8**・**0**・**9**・**0**・**5**・**8**・**1**・**7**・**0**・**1**・**5**)。

● 市国元町在住の音楽ユニット「花☆キアラ」

ポップスから沖縄民謡まで生活に根ざした明るく前向きで分かりやすいオリジナルソング▽CD『マルゲリータとトマトパスタ』あなたらしくあたらしく『好評▽六月 千日(土)十九時からあやや食堂築港一・ハ・一七、地下鉄大阪港駅からみなと通の南側を海に向かって三分 **8**・**6**・**5**・**7**・**1**・**0**・**0**・**0**であやや de Night t③おきなわチャンプルNightを主催。二十二日は「沖縄慰霊の日」。三線の調べに心は沖縄へ。参加費五百円(一飲物付)▽HPは <http://kaohanakkyara.wix.com/hanakkyara>(花☆キアラ)で検索可、港新聞HPからリンクも



→ 花☆キアラの演奏風景

住まいの防犯レベル高め

① ワンドア・ツーロックは常識
② ピッキングに強いカギに交換
③ 窓にも補助錠の取り付けを

PHS・携帯OK ☎ **0120-70-5569**

(ア) 港カギ防犯センター

安全・安心をご提供します

港区港晴 1-4-8 (港晴小学校並び)

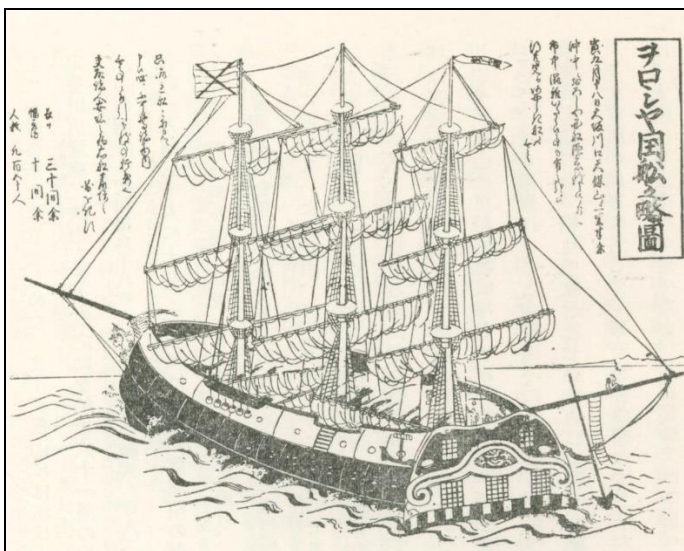
港カギ防犯センター

☆大阪府錠前技術者防犯協力会会員
☆港防犯協会会員 ☆防犯設備士第00-6738号

みつちやんの

港区なるほど歴史ガイド

●…ロシアの黒船騒動 その一



→二八五四年、天保山沖に現れたロシア艦の図

黒船はペリーだけじゃないんで。あの大坂あ
げての「天保の大川浚え」(前々々)が終了して
から二十一年後、「浪化の新名所」として賑わっ
ていた我が天保山の沖合に突如、どどかい軍艦
が現われたのです。その名は「ディアナ」。

ロシア黒船 天保山に

アメリカと競い、通商求めて

嘉永八(一八五三年)八月、アメリカの使節ヘ
リーが軍艦四隻を率いて三浦半島の浦賀に來航
して開港を求め、八月にはロシアの使節フチャ
ーチンがやはり軍艦四隻で長崎へやって来て、
「千島と樺太の国境をはつきりさせよ」「通商
しよう」と迫りました。翌安政元(一八五四)年
には再びペリーが九隻で神奈川沖へ、さらにイ
ギリス、ロシアの軍艦も來航。つまりこの頃、
西欧の資本主義国が「アジアの国を植民地にし
たれ」と次々にその魔手を伸ばしてきたのです。
一方、国内では嘉永八(一八五三年)五月から
百日以上も続いた大旱魃で米の値段が暴騰、六
月には十一代將軍・家慶が死にするなど、ただ

でさえ不安定な政情に加え、鎖国下でこれまで
経験したことのない外国船來航という事態に、
民衆から幕府まで、まさに上を下への大騒動。
「太平の眠りを覚ます上書撰(茶の名称を「蒸
気船」と掛けた、たった四杯で夜も眠れず」な
どの落首(風刺・嘲笑を込めた詩歌形式の匿名
の文書が広まったのも当然でした。

◆「ロシア艦が来ると」知らせが

そんな折も折、さらに大坂の町民を驚かせた
のが、安政元(一八五四)年九月十八日、天保山
沖に現われたロシアの軍艦でした。

「九月十五日正午ごろ、紀州田高の沖合七
八里を、国籍不明の外国艦が西に向かつて航行
中です」と紀州藩から大坂城代(大坂城主の留
守を守る役職)・十屋寅直へ伝達してきたのは
翌十八日の未明で、続いて「十五日夜、紀州南
塩屋の沖合五十町に停泊しているところを確認
させたところ、ロシア軍艦と分かりました」と
伝達されたのは十八日昼でした。

さらにこの軍艦は十七日午後には岸和田の沖
を通過し、進路を北西につけて淡路島の飯塚沖
から兵庫に向かい、和田岬に停泊。この知ら

はも明石藩から早馬（急用を伝える使者の馬）で、その日の夕方に到着しました。

大坂ではこれらの伝達を受け取った時、まずは色を失いましたが、何より恐れたのは市中に流言が広がることでした。しかし事実は一夜のうちに知れ渡っていました。

◆「アメリカに負けてたまるか」と

この外国艦は、海軍中将で極東艦隊司令長官エフワイミー・プチャーチンを使節とするロシア軍艦ディアナ号でした。もっとも同号の日本来航はこの時が初めてではなく、冒頭に述べたように、前年の嘉永六（一八五三）年に一度、長崎へ来ていました。つまりロシアは遠く寛政年間（一七八九～一八〇〇）年から我が国との通商貿易を迫っていたのですが、幕府の容れようとはならなかったのです。

そこで嘉永六（一八五三年）八月、アメリカがペリーを派遣したと聞かや、その翌月、ロシアはプチャーチンに軍艦四隻を率えて長崎へ来航させたのですが、その目的を達することができずに帰ったのです。

ところが翌年、つまり安政元（一八五四年）三

「ディアナ号を率いたプチャーチン中将



月、日米間に条約が締結されるに及んで、ロシアは「後れてたまるか」と再びプチャーチンを派遣したのです。が、このとき本国ではクリミア戦争が勃発したばかりだったので、前のように四隻もの軍艦を率いることができず、わずかにディアナ号一隻。それでも「今度は函館から一気に大坂港を衝いてやる」と決心して示威行動に出ようとしたのです。

ですからいったん兵庫沖に停泊したディアナ号は、そこで一夜を明かしただけで、今度は進路を東にとり、阪神の沖を通って、大坂・天保山の沖（二十町ハミ超）ほどの所へ腰を据えたのです。十八日の申の下一刻といえますから午後五時ごろでした。もっとも「ロシア艦が大坂

に向かつて回航した」といつ早打（早馬で急用を伝えること）は、既に届いていたので、城内はもとより市中は「鼎の沸くが如き」器の湯が煮え立つような大混乱となっていました。

◆大砲八十挺を備え

ディアナ号の威容は、記録によると「水際から見上げた高さは一丈五尺（約四・五メートル）、長さ三十間余（約五十五メートル）、幅は十間余（約二十メートル）。帆柱は十間余（約二十メートル）のものが中央に一本、七～八間（十二～四メートル）のものが前後に一本ずつ高く聳え、日本人にも読めるような仮名文字で『おろしや』と書いた旗を掲げていた。船縁は、上を黒、中を白、下を赤の二段に塗り分けていた」となっています。

またその装備については「大砲を上段に十挺、中段に十五挺、左右合計五十挺、前後に六挺ずつ、合計八十挺が備わっていた。バツティラ（ボルト）十五艘、これは我が伝馬船（積み降ろし用の小船）より小さく、黒塗り・白塗りと混ぜ、剣付砲も備えていた。乗組員は五百一人など記されていました。（つづ）

〈小西典 港区田中在住の郷土史研究家〉

みなと

人生

劇場

場

港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木健一さんがつづる『正地ドラマ』第八弾は、田中在住の九十代女性が辿った波乱万丈、愛と涙と笑いの家族物語、港区版「おしん」。

こううんばし そら

幸運橋の空 ①

前号まで 港区のデイサービスに通う大東久美子は次男の勧めで回想録を残すことになった。久美子は一九二二年、浪速区に生まれた。女遊びと博打に目がない父・弥太郎は腕の良いベルト職人だったが、解雇を機に転居を繰り返して、久美子が三年生の頃から賭場に入り浸った。母は工場の賄いなどで子供を守り、六人兄弟姉妹の長女である久美子は子守奉公などで母を助けたが、父は久美子を子守置屋へ奉公に預けては借借りを繰り返すなどした。愛想をつかした母は父を賭場に置いて港区の次兄久美子の

伯父宅へ移った。やがて父は技術を買われて上海へ。母は昆布売りの露店を始め、十歳の久美子は学校を離れて二年間、田中元町(今の石田三丁目付近)へ子守奉公に出ることになった。満州事変(一九三二年九月)を機に中国大陸で戦火が拡大していく時代だった。

● 若い女主人のもとで子守奉公

その家の主人はもと港新地(現在の夕陽辺)の里菊といつ名の芸者で、その時は既にやめて外国航路の高級船員の三(三)妾(めかけ)になっていた。長崎県立女学校の出で教養があり、美しく、まだ二十七歳。久美子はその五力月位の子の守りをするようになったのだ。

そこにはその若い女主人の他に「大婆さん」とお母さんがいた。七十歳ぐらいの「大婆さ



んは毎晩晩酌をし、食事では古い沢庵を糸みたいに細く切って食べていた。洗濯物は「汚れがよつ落ちるから」とひと晩水に浸けておいたが、冬にはその水が凍った。「大婆さん」はそれで久美子に洗濯させた。

「お母さん」は長崎のある県会議員の三(三)で、生んだ女の子二人は、本妻に子供がないからと本家に引き取られたといふことだった。彼女も教養があり、縫い物をはじめ何でもでき、優しい性格の人だった。この「お母さん」は結核を患(わづ)つていて、「体」ええからと毎晩、備前徳利で蒸した鰻の油を飲んだりしていた。

● 母が借借の先を飛び出す

ところどころの頃、久美子の兄弟姉妹は、前にも述べた通り、生まれてすぐ死んだり、父の実家に引き取られたりしていたので、このとき母と一緒に暮らしていたのは、捨五郎、富子、照子の弟妹三人だった。

やがて、子守奉公にも慣れた、ある雨の日、妹の富子が照子をおんぶしながら奉公先へやって来て、言った。「姉ちゃん、港劇場(映画館)のところにお母ちゃんがねんちよつて来て」。

大急ぎで港劇場まで行くと母がいて、久美子に言った。「お母ちゃんば遠くへ行くけどな。お前はお金借りてるから辛抱せよ」。

母は間借りしていた次兄久美子の伯父と何かのことで口論の挙げ句、「居候のくせに」など言われて情けなくなり、久美子以外の子供ら三人を連れて飛び出すようにしたのだ。

久美子は「ちょっと待って、姉さんに言っているわ」とすぐ奉公先の主人の所へ走った。

● 女主人は深く同情

事情を聞いた彼女は深く同情し、「みんな連れといて」と久美子に母ら呼びにやらせた。そして「寒いの……」「かわいそう……」「と泣きながら、卵焼きと味噌汁とご飯を作って食べさせてくれ、それから言った。

「もう遅いから、今晚はうちに寝たらええ。

この近所に空き家があるから、これからはそこで住み。それに（露天商では）雨が降ったら、あっち動き、こっち動きをせなあかんから、困るやろ。どいかなの軒（かま）でも借りて商売しい。お金を出してあげなから」。禍（わざ）を転じて福になすは、めれいじのじだつた。

● 十田を元手に新生活へ

彼女が貸してくれたこの十田で、久美子の家族はその空き家（平屋）を借りて住むことができたばかりか、母のころ昆布売りの店を幸運橋市場（今の石田三丁目付近）にあったの一角に構えることもできたのだ。その時の十田の使い道は確か、借家に五円、店に三円、昆布や沢庵など商売の元手に「一円」といったところだったのを久美子は今も覚えていた。

そしてこのおかげで、父の実家に引き取られていた弟の善道（ぜんどう）を呼び寄せることもできた。また隣の煙草屋（たばこや）の主人が親切な人で、久美子たちの店の二階に、夜の店番に寝る部屋を作ってくれたらしい。

こうして久美子たちは、年若くも愛情厚い奉

公先の女主人によって窮地を救われた上、思いもなかった新しい生活へと踏み出すことさえできたのだ。

● 父が梅毒患って帰国

そんなところへ、上海に渡っていた父が帰ってきた。久美子が奉公をまだ一年ほど残していた時期だった。父は現地の娼婦（かんぷ）から梅毒（びんぞう）をもらって目を悪くし、その治療のため帰国したのだ。

父はベルト技術の指導で上海にいる間、かなりの金が入っていたはずだったが、家へお金を送ってきたことは一度もなかった。それでも母は、父が千舟橋（ちふなはし）の袂（たもと）の林（はやし）という眼科へ通院するのにな、いそいそと付き添ってやっていた。おかげで父の容態（ようたい）は快方（かいほう）へ向かった。

その一方で、久美子が奉公に出ていることを憂えた父は「金は何とかなるから帰って来い」と奉公先から引き揚げるよう勧め、善道に久美子（きみこ）を呼びに来させたりした。しかし久美子は「いんなによつてもゐるのに、途中でやめるわけにはいけへん。きつちり三年（さんねん）とめて、たとえ一カ月でもお礼の（余分の）奉公して帰る」ときがなかった。



平和のため

戦争体験

語り継ごう

おがわ ひろし

小川 宏さん(八〇) 〓 弁天在住 ①



※ 今月から、港区に生まれ育ち、太平洋戦争下の厳しい疎開生活を耐え抜き、戦後は酒販業や町会活動などで日本の復興と地域発展に尽くしてこられた小川宏さん(八〇) 〓 弁天在住 〓 にその体験を語って頂きます。

活気ある長屋で恵まれた幼少期も

戦火は中国から太平洋へ

私は昭和十二(一九三五年)四月、港区西市岡三

丁目(今の弁天三丁目)の一部に生を享けました。物心ついた頃、家は酒屋を営んでおり、祖父の出身地(岡山県倉敷)に因んで「備前屋」の暖簾をかけていました。

◆ 酒屋を始めた祖父

祖父・小川貞太郎は酒屋を始めるまで、当時勃興しつつあった大阪紡績(現在の厚生年金病院)や下福島公園などを含む一帯を敷地にしていました。その関係が、最近まで小川家の本籍地は下福島だったの工場長をしており、「多趣味で器用な人やった」と父から聞いていました。柔道・剣道は師範、狛犬を連れての鳥の鉄砲撃ちもたしなみ、魚釣りでは竹藪から伐り出して作った三本つなぎや五本つなぎの竿が数十本も家であり、たも網も自ら編んでいました。工場長という職業柄、時間と金に余裕があったのか、とにかく何でもがブ口級の腕前でした。

その祖父が工場で鼻肩にでもうっていた重役が退職されたのを機に、祖父自らも退職。かなりの退職金が出たので、それを「減らすすに」しかも健康に良い商売はこれや」と、父と一緒に酒屋を始めたのでした。

◆ 酒屋をついた父、優しくった母

父・貞義は明治四十二(一九〇九年)生まれ。勉強がよくできて人気もあり、尋常小学校を卒業する時には皆から祝福の胴上げをされたそうです。が、ふざけて地面に落とされ右手を骨折。それでも、創立間もない難関の市岡商業学校四期生の入試に左手で受験し、合格。勉学に励み、書道拔群、英語も達者で、大阪商大(現・大阪市立大学)を目指していましたが、先に述べた祖父の事情で断念し、泣く泣く酒屋を始めました。とはいえ二人ともいわば武士の商法。特に祖父は朝の内だけ仕事につき、午後は父に任せて趣味の世界に浸っていました。

一方母・春江は大正三(一九一四年)生まれ。神戸で大きな商いをしていて実家に八人兄弟姉妹(男五人、女三人)の第子(長女)として育ち、兵庫県立女子商業学校を卒業。当時の女

子の習い事(お茶、お華、三味線、長唄)にはひと通りの免状を持っていました。鷹揚で優しいところがある反面、少々の困難にも負けず、状況を自分で切り開く逞しさがありました。

◆ 統制経済で酒は配給制に

この両親や祖父の許で私は育ったのですが、昭和六(一九三二)年の「満州事変」、昭和七(一九三三)年の「満州国」建国などを経て昭和十二(一九三七)年には日中が全面戦争に突入するまで物心ついた時分には中国大陆での戦火は拡大する一方で、六歳になった昭和十六(一九四二)年には統制経済ということで、米や砂糖と共に酒も配給制となり、父の酒販店は自由な営業が出来なくなっていました。

◆ 賑やかだった長屋暮らし

とはいえ、そんな中でも当時の港区は人口二十万、現在の三倍ほどもあり、大阪市で第一位でした。また江戸時代の新田開発による新興の土地で住民の多くは九州や四国・中国地方からの次男や三男。そのため助け合いの気風が強く、私も小学校へ上がるまでは朝から晩まで向かいの洋服屋の老夫婦に、五歳年下の弟は京都

←戦火拡大する中国大陆(昭和十四年南寧突入)
①と太平洋戦争開始(昭和十六年真珠湾攻撃)



出身の老夫婦に面倒を看てもらったものです。

そんな港区の中でも私の生まれ育った西市岡や夕風あたりは特に賑やかでした。西市岡は、現在の夕風交差点(みなと通)の住友銀行前から北へ向かって中央大通を渡り、さらに百ほど入った所にある長屋で、新世界と並ぶ戦前大阪の一大遊興施設として一万坪もの広大な敷地を誇る「市岡パラダイス」がすぐ近くにありましたことから「パラダイス通り」とも呼ばれ、芝居小屋(衆楽館)やカフェ、ビリヤード、小島屋、煙草屋、大きな菓子屋、駄菓子屋、喫茶店、瀬戸物市、医院などが軒を連ね、毎月九、十九、二十九日にはみなと通からパラダイス通りまで

夜店が立ち、私の家の前には植木屋が七、八店も出ました。また長屋とはいっても、我が家のような商家には後前栽(前栽)木や草を植え込んだ庭がしめた屋(商家ではない普通の家)には前前栽が備わっていました。

私は五人兄弟姉妹(男・男・男女・女の第二子(長男))でしたが、弟が生まれるまでの五年ほどは一人っ子として可愛がられて育ち、近所の一文菓子屋で駄菓子を買った「そんなん食べたアカン」と森永や明治の高級なチヨコレートやキャラメルを与えられたものでした。

◆ 「真珠湾攻撃」のニュース

そんな幼小期も終わるころとする八歳の冬、昭和十六(一九四二)年十一月八日、「真珠湾攻撃に成功」のニュースが町を駆け巡りました。とうとう超大国アメリカやイギリスとの間にも戦端が開かれ、いわゆる「太平洋戦争」が始まったのです。が、何も分らない私は、市岡パラダイスの中の映画館へ何度も連れて行ってもらい、その二二ス映画を繰り返し観ては、大勝利に沸く大人たちの興奮を子供ながらに感じたものでした。

(つづく)

生伴奏に声合わせ



「シャンカフェ」快調に一周年



→一周年を迎えた「ねこじやらしのシャンテ☆カフェ」。懐かしい歌の数々に老若男女が声を合わせた。五月二三日、港近隣センター

美しいピアノの生伴奏で、若いも若きも懐かしい歌に声を合わせる月例イベント「ねこじやらしのシャンテ☆カフェ」が発足一年を超え、快調に回を重ねています。一周年の五月二三日（土）には会場の港近隣センター（八幡屋一・四・一〇）に男女数十人が集い、楽しい「時間を過ごしました。歌を愛する人たちの集まり」ねこじやらし歌サークルが主催。学童保育関係者の集まり「ゆずりはの会」が協力。各地で歌声喫茶などを催す「ねこじやらし音楽事務所」が企画協力を、毎月第四土曜日に開催されています。

♪ 童謡・唱歌からシャンソンまで

この日も自称・美人ソプラノデュオ「ピチピチ」（原田電子^{とみこ} & 山沢桃子^{ももこ}）さんが司会。各地で音楽活動を展開する喜多^{きた}陵^{りょう}介^{すけ}さん（同事務所代表）がピアノ伴奏を担当、参加者からのリクエストを受けて次々と歌唱が進行しました。季節から『花まつり』『夏の思い出』など春から夏の歌への希望が目立ちましたが、童謡・唱歌から内外民謡・歌謡曲まで、誰もがいつかどこかで聴いた懐かしい歌ばかり。司会の明るいリードや美しいピアノ伴奏にもつられ、みんな伸び伸び

→司会者の明るいリード①で発声も滑らかに②



唱和。特に「部に分かれた『堂（どう）こい』は幻想的な雰囲気（^{かま}）を醸し、ムードは最高潮。また五月誕生者には喜多さんから自作歌や記念品が贈られ、会場は家族的雰囲気（^{かんけい}）に包まれました。

♪ 次回は八月十二日、オリジナル歌集も

シャンテ☆カフェは同センターで毎月第四土曜十四時から八月は夏割の十二日で終了。不定期にゲストを迎え、リクエストを中心に約二時間。参加費千円（税込）。このほどオリジナル歌集が完成、頒布開始。問い合わせは「ねこじやらし音楽事務所」（井田四一^{しんいち}）一三〇二一六五五六・六八八八、<http://necojyarasii-jimdo.com/>又は「ゆずりはの会」（八五七一・六八四二）まで。

文化的イベント案内

みなとカルチャ

●関西フィルハーモニー管弦楽団「第二六七回定期演奏会」 「神と祖国を讃える英国の太交響曲…秋山のエルガー」と題し、卓越したバトニックと、古典音楽から現代音楽まで幅広い演目を持つ秋山和慶さん(東京交響楽団桂冠指揮者、日本指揮者協会会長、文化功労者)の指揮で、行進曲『威風堂々』などで知られるイギリスの世界的作曲家、エドワード・エルガー(一八五七・一九三四)の交響曲などを贈る。演奏曲目は、①エルガー：コケイン序曲 作品40

②ワルトン：ファサード 第1組曲、第2組曲③



→定期演奏会で指揮を担当する秋山和慶さん

エルガー：交響曲第1番 変イ長調 作品55。七月十八日(木)十九時からザ・シンフォニーホール(JR大阪環状線「福島駅」から北へ徒歩約七分)で、十八時四十分から指揮者フレトウ・ス席八千円、A席四千五百円、B席三千円、C席二千円、学生席二千五百円以下千円。全席指定・消費税込。 ☎六五七七・二三八一。

●弁天町ORC200生涯学習センター「オーク弁天寄席」 旧・弁天町市民学習センター時代から長年親しまれた人気イベントの再開第十四回、通算第四八回。六月二十四日(水)十九時二十時半に講堂で。出演は笑福亭學光さん(徳島出身の落語家、笑福亭鶴光門下)と旭



→弁天町ORC200生涯学習センター「オーク弁天寄席」にレギュラー出演する落語家笑

福亭學光さん(上)と講談師・旭堂南麟さん(下)

←「第二四六回オーク弁天寄席」に出演する笑福亭鶴二さん(上)と桂米輝さん(下)



堂南麟さん(大阪出身の講談師、旭堂南校門下)をレギュラーに、今回は笑福亭鶴二さん(大阪市生野区出身、笑福亭松鶴一門)、桂米輝さん(奈良県大和郡山形市出身、桂米朝一門、桂米團治の弟子)も。先着二百名。当五百円、前売四百円。オーク弁天寄席の会と同センターが主催、ORC200店舗会が協賛、ラジオ大阪が協力。 ☎六五七七・一四一〇。

●弁天町ORC200生涯学習センター・弁天シネマ倶楽部『黄昏』 「心に残る名作映画を低料金で多くの市民に」と旧・弁天町市民学習センター時代に企画され、人気を博したイベントの再開第七回、通算第四十回。『シカ』に働き

に出た田舎娘ギャリーは、すくさま悪い男にだ

まされ、同棲を始める。彼女の勤める高級レス
トランの支配人ハーストウッドは素朴な彼女に
惹かれていくが、その裏には妻との冷え切った
仲があった。キャリアとの結婚を考え、離婚話
を持ちかけるが、まるで相手にされず、遂に店
の金を盗んでキャリアとNYへ駆け落ちした。
が、幸福な暮らしも束の間、私立探偵の追及が
襲う。監督はウィリアム・ワイラー。出演はロ
ーレンス・オリヴィエ、ジエラファール・ジョー
ズ、ミリアム・ホプキンス、エディ・アルバート
他。一九五二年、アメリカ、モノクロ、二二
分。七月二十五日(土)十時と二十四時から講堂で。
料金は一人一回八百円(前売五百円)。定員は各
回先着百名。☎六五七七・一四二〇。



→弁天シネマ倶楽部『黄昏』から

●港図書館

①図書展示「こどものほんだな」
展⇨七月三十一日(金)まで開催中。物語や知識
の本から絵本まで、子供向けの本を展示。大人
も楽しめる。展示本を紹介した冊子『こども
ほんだな 一〇二五』配布も②おたのしみ会⇨毎
週水曜日の十五時半〜十六時にじゅうたんコー
ナーで。幼児と保護者を対象に絵本の読み聞か
せや紙芝居、パネルシアター、手遊びなど。申
込不要③あかちゃんのおたのしみ会⇨毎月第一
金曜日(七月は三日)の十一時〜十一時半にじゅ
うたんコーナーで。赤ちゃんと保護者を対象に、
赤ちゃんが絵本に親しめるよつプログラムを工
夫。毎週のおたのしみ会より赤ちゃん向け。
申込不要④かみしばいのじかん⇨毎月第一土曜
日(七月は四日)の十五時半〜十六時にじゅうた
んコーナーで。『せんどの風』による紙芝居⑤夏の
こども会⇨七月十八日(土)十時半〜十一時半に
港区民センター「階 橘」で。親子連れ向けに
「港子ども劇場」が新作。ペーサートの実演や大
型絵本の読み聞かせなど⑥図書ホランテニア募
集⇨港区内の保育所や幼稚園などで子供たちへ
の絵本の読み聞かせなどの活動。申し込み締め

切りは七月三日(金)。詳しくは港図書館へ▽☎
六五七六・一三四六。

●シネ・ヌーヴォ「羽」進映画祭『李香蘭』(山)

口淑子「追憶特集」『若尾文子映画祭 青春』ド
キュメンタリーに革命を巻き起こした映画の天
才・羽仁進、中国人として日本人として激動の時
代を生きた女優・李香蘭、巨匠に愛され珠玉の傑
作を残した女優・若尾文子。戦前から戦後につけ
て、昭和の時代に輝きを放った三人の作品から
必見の注目作を選んで連続特集上映。羽仁進作
品は六月十二日(土)〜七月三日(金)に『不良少
年』『充たされた生活』『彼女と彼』『初恋・



→羽仁進の代表的ドキュメンタリー作品『不良
少年』①と、平凡な主婦の日常から自由とは
何かを問いかけた羽仁進作品『彼女と彼』②

←兵士と慰問歌手との悲恋を描いた李香蘭主演『暁の脱走』(上)と、逆境に負けない乙女の姿が感動を呼ぶ若尾文子主演『青空娘』(下)



地獄篇』『歴史Ⅱ核狂乱の時代』など二十作。李香蘭作品は七月四日(土)〜十日(金)に『支那の夜(総集篇)』『サヨンの鐘』『暁の脱走』『風雲十面船』『私の鷺』など八作。若尾文子作品は七月十一日(土)〜九月四日(金)に『青空娘』『女は一度生まれる』『氷点』『お嬢さん』『記』など六十作。当口一般千四百円。上映スケジュールなど詳細は同館(西区九条一・二〇・二四、地下鉄中央線九条駅⑥)出口歩三分、阪神なんば線九条駅②出口歩三分、**八六五**八・一四二六へ。

●ガットネロ市岡在住の社会派シャンソン歌

手・松浦田美子さん主宰の音楽喫茶。毎月多彩な企画▽音楽と朗読による『茶色の朝』とアンネの夜Ⅱ第 二次世界大戦後七十年、アンネ・フランク没後七十年、歌と朗読で戦争策動に警鐘を発し平和を呼びかける。歌と朗読：松浦田美子さん朗読：柏原圭子さん(朗読劇団あめんぼ座)。六月二十一日(日)十四時から兵庫県立芸術文化センター神戸女学院ホールで。参加費三千円(学生千円)▽HAMORI・BEEのつた★カフェⅡ若手テノールデュオ(中川公志さんと小原有貴さん)が日本の懐かしい歌を贈る。七月十八日(木)十五時、十七日(金)十五時、十九時、八月十日(木)十五時、二十一日(金)十一時、十五時の全五回(各八十分、休憩なし)。各回 千五百円



→ガットネロを主宰する松浦田美子さん(上)と『うた☆カフェ』出演のHAMORI・BEE(下)

(二飲物付)、要予約▽詳細はガットネロ(天王寺区上本町六・二・三七、地下鉄谷町九丁目駅⑪)出口、**八六七六七・〇〇二**ドへ。

●ぎやろりー&かふえ風庵「近江の麻〜良質な麻を身近に〜」展 人類最古の繊維である麻は丈夫で吸水・発散性にも優れていることから「夏の繊維」とも呼ばれる。琵琶湖の風土を生かした近江(滋賀県)の麻で作ったタオル、ハンカチ、バッグ、コースター、うちわなどの麻製品が今年も届いた。手仕事で仕立てられた小物や雑貨も。七月三十日(木)まで好評展示中。「風庵」は南市国三・二・一〇(繁栄商店街内)、**八四九六五・五九八**〜十時〜十八時開館(日曜定休)。



→風庵で開催の「近江の麻〜良質な麻を身近に〜」展の展示品からタオル類(上)とバッグ類(下)

ひとくちPR

(二行)税込二〇〇円、写真は別料金相談

● **そろばん学習で子どもが変わるー！** 右脳活性化直される効用。そろばん教育は情緒を安定させ、学習意欲を高めます。「生きる力」「学ぶ力」も強めよう。森友総合教室 **検索** (夕凧 一三三七三津神社西側 五五七二一六八七七)。

● **放課後・春夏冬休みは学童保育へ** 入所児童募集。指導員が安全・健全・家族的に学びや遊びを指導。体験可。携帯〇九〇・五八九一・〇三三

四(西原)か 五五七二一六八四三あおぞら学童。

● **磯路ピアノ教室** 大きい人も小さい人も楽しくレッスン。 五五七四一三四 三東 條和恵。

● **ボクササイズでシェイプアップ** 女性も小中高生も楽しく練習。月八千円(無期限十枚綴りチケット八千円)。入会金二万円を口金半額。練習日は月水金の十九時半〜二十一時半。港ボクシングジム(三先 一三三九 http://ameblo.jp/minnatoogym/)。

● **囲碁クラブ** 毎月第一・四・七・十・十三・十七時に港近隣センター会議室で。一回五百円。家族の囲碁。 五〇九〇・二二九八・八四四三瀬戸。

← 港ボクシングジムのトレーニング風景(三先)

①と 囲碁クラブの対局風景(港近隣センター)



● **新しい作業所でお仕事しませんか** 障害者手帳を持ち一般企業で働くのが困難な方。喫茶又は軽作業。二十名。就労支援B型作業所・相談支援事業所わたぼうし(夕凧 一三三九 一〇〇、FAX 五五七六・〇二二)。

● **介護のことはお任せ** ①介護や老いの相談に乗ります②介護の手続きを代行します③デイサービスは送迎付きで入浴・昼食・手芸・ゲームなどを楽しまします④訪問介護は買物・掃除・洗濯・通院などを手伝います。NPOみなと共同ケアセンター(南市国三二一六・二六 五五八三・四八八〇、FAX 五五八三・二二二)。

● **あなたのふとんが生まれ変わる** わた 綿も羽毛も掛も敷も熟練職人が心込めて仕立て替え。シングル掛敷ふとん二万円。理想のまくらづくり、フライダルふとん選びもお任せ。ふとん館ひらのや(南市国三二一六・二六 五五八三・四八八〇、FAX 五五八三・二二二)。

● **おしゃれ着いっぱい** 神戸メーカー直送お出かけ着から普段着・肌着まで。サイズ豊富。ブティック・ミニト(八幡屋 一四・八、入舟公園前、大阪信全横、十・十八時営業、日月定休)。

● **読者プレゼント** ※いずれもハガキに当月の感想とプレゼント名を書いて二十日必着で港新聞へ。

● **関西フィル「第 六十七回定期演奏会」** (みなとカルチャー) 招待券をへア一組に。

● **「オーク弁太寄席」** (みなとカルチャー) 招待券をへア一組に。

● **あんがいおまる一座『文月物語』** (演劇カイド) 招待券をへア一組に。

● **劇団はるま座『動けば雷電の如く』** (演劇カイド) 招待券をへア一組に(日時指定)。

● **あながいおまる一座『文月物語』** (演劇カイド) 招待券をへア一組に。

● **劇団はるま座『動けば雷電の如く』** (演劇カイド) 招待券をへア一組に(日時指定)。

● **あながいおまる一座『文月物語』** (演劇カイド) 招待券をへア一組に。